

事後評価書

箇所名	伊賀地区、伊賀2期地区、伊賀3期地区、青山地区		事業名	農道整備事業	課名	農業基盤整備課												
事業概要	工期 (下段前回)	昭和61年度～ 平成22年度	全体事業費 (下段前回)	28,783百万円 (広域農道 負担率：国50%：県35%：他15%) (ふるさと農道 負担率：国0%：県65%：他35%)														
		昭和61年度～ 平成18年度		28,313 百万円 (広域農道 負担率：国50%：県35%：他15%) (ふるさと農道 負担率：国0%：県65%：他35%)														
事業目的及び内容		<p>(事業目的) 伊賀市・名張市地域に点在する農業生産団地を環状道路で接続することにより、農産物の集出荷の合理化、消費地へのアクセスの向上を図り、地域農業の発展を目的としています。</p> <p>(事業内容) 農道整備 L=43.0km 伊賀コリドールロード90.8km (内、農道区間43.0km) の内訳は、広域営農団地農道整備事業 伊賀地区L=10.7km、伊賀2期地区L=17.0km、伊賀3期地区10.8km、ふるさと農道整備事業 青山地区4.5kmとなっています。</p>																
1・事業の効果		<p>「直接的効果」                      &lt;費用便益分析&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="3">平成16年度 再評価時の経済効果</td> </tr> <tr> <td>便益 (現在価値合計)</td> <td>／ 費用 (現在価値合計)</td> <td>= 879,841 / 397,688 = 2.21</td> </tr> <tr> <td colspan="3">平成28年度 事後評価時の経済効果</td> </tr> <tr> <td>便益 (現在価値合計)</td> <td>／ 費用 (現在価値合計)</td> <td>= 1,379,499 / 773,527 = 1.78</td> </tr> </table> <p>○事後評価時の各便益について                      生産性の向上については、生産効率向上便益が平成16年度より減少しています。また、アクセス環境の向上については、アクセス機能向上便益、交通事故減少便益、環境改善便益が平成16年度より増加しています。</p> <p>「間接的効果」                      &lt;農産物直売所&gt;                      地域内には大型の農産物直売所、ひぞっこ (伊賀市、H27.12月建設)、とれたて名張交流館 (名張市、H24.8月建設) を始めとする多くの農産物直売所ができ、伊賀コリドールロード (以後、コリドール) を通じて市内または市外から、常に新鮮な作物が運ばれ、連日、店内は地域の購入者で賑わっています。売り上げも年々伸びており、現在、ひぞっこでは年間3億2000万円、交流館では1億円程度の売り上げがあります。両直売所への登録者も年々伸びており、地域の活性化に一役を買っています。</p> <p>&lt;菜の花&gt;                      景観作物として栽培が行われている菜の花は、菜種から搾油ができることから、菜種の生産が行われるようになってきました。菜種は刈取り後、コリドールを通行して搾油施設に運ばれ、冷蔵庫にて保存されます (長期保存可能)。注文が入るたびに搾油され、常にフレッシュな菜種油が県内外を問わず発送されています。油を詰めるピンは近隣のガラス工場で生産されるなど、地域産業にも寄与しており、最近では地域の高校・民間とのコラボレーションで菜種油を利用した商品開発の取り組みも始まり、様々な波及効果が生まれています。</p>					平成16年度 再評価時の経済効果			便益 (現在価値合計)	／ 費用 (現在価値合計)	= 879,841 / 397,688 = 2.21	平成28年度 事後評価時の経済効果			便益 (現在価値合計)	／ 費用 (現在価値合計)	= 1,379,499 / 773,527 = 1.78
平成16年度 再評価時の経済効果																		
便益 (現在価値合計)	／ 費用 (現在価値合計)	= 879,841 / 397,688 = 2.21																
平成28年度 事後評価時の経済効果																		
便益 (現在価値合計)	／ 費用 (現在価値合計)	= 1,379,499 / 773,527 = 1.78																

<メロン>

名張市美旗地域ではメロンの生産が行われるようになり、収穫時期になるとコリドール沿いのコントロールエレベーター内で直売所が開かれ、生産者はコリドールを利用して直売所へ、消費者もコリドールを利用してメロンを購入しています。特に毎年の直売所オープン初日には、整理券が配られるほどの購入者が来場し、施設内が人で溢れ返る賑わいとなっており、美旗メロンのブランド化に繋がっています。

<通院・デイサービス>

地域内にある老人介護施設の施設管理者へヒアリングを行ったところ、施設利用者の送迎や施設に勤務する多数の職員の通勤路としてコリドールが活用されていることが確認出来ました。施設の方の声として、「朝夕の車の多い時間帯でも、施設利用者を時間通りに自宅まで送迎できるため、大変助かっている」とのお話をいただいています。

<避難路としての活用>

既存道路との接続を踏まえて建設されたコリドールは、防災時の緊急避難路に指定されてはいないものの、住民へのアンケートの結果によると、防災上の安全性の向上や、地震・風水害時の心配が減ったとの声も聞くことが出来ました。このことから、コリドールは既存道路に変わる代役的な道路としての活用も期待されていることが分かりました。

2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

工事で開削した山の法面に植生緑化を施工したほか、有識者の方々からアドバイスをいただいて、山間に生息するリスの生態に配慮したリスブリッジを設置するなど、事業による環境面への配慮を行いました。

〔リスブリッジ・・・道路を設置することによって山の連続性がなくなることから、リスなどが道路を横断せずに、高所を安全に移動するための施設〕

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

<農業者数と高齢化>

伊賀地域の農業者数については、平成12年度の20,018人に対して、平成22年度では14,059人と約30%減少しています。また、65歳以上の農業者数は15%の減少となっており、高齢化人口率としては約7%の増加となっています。

	平成12年度			平成22年度			増減率		
	農業人口(人)		高齢化人口率	農業人口(人)		高齢化人口率	農業人口		高齢化人口率
	農業者	うち65歳以上		農業者	うち65歳以上		農業者	うち65歳以上	
伊賀市	16,218	5,305	32.7%	11,458	4,594	40.1%	-29.4%	-13.4%	7.4%
名張市	3,800	1,295	34.1%	2,601	1,019	39.2%	-31.6%	-21.3%	5.1%
合計	20,018	6,600	33.0%	14,059	5,613	39.9%	-29.8%	-15.0%	6.9%

(出典:農林業センサス)

<農用地利用集積面積>

伊賀地域の作付面積は、平成16年度が8,322haに対して、平成27年度が8,278haと0.5%の微減となっています。また、農用地利用集積面積は、平成16年度が1,416haだったのに対し、平成27年度には1,863haと約30%増加しています。集積率としては5.5%の増加となります。

	平成16年度			平成27年度			増減率		
	作付面積(ha)	集積面積(ha)	集積率	作付面積(ha)	集積面積(ha)	集積率	作付面積(ha)	集積面積(ha)	集積率
伊賀市	7,218	1,270.4	17.6%	7,204	1,703.3	23.6%	-0.2%	34.1%	6.0%
名張市	1,104	145.7	13.2%	1,074	159.8	14.9%	-2.8%	9.7%	1.7%
合計	8,322	1,416.1	17.0%	8,278	1,863.1	22.5%	-0.5%	31.6%	5.5%

#### 4・県民の意見

##### <アンケート方法>

- ・伊賀市、名張市の住民1,000戸にアンケート用紙を配布し、771戸から回答が得られました。
- ・質問事項は、①居住地の状況、②コリドールの利用状況及び目的、③コリドール建設による効果、④コリドール建設による悪影響、⑤農家、非農家の区分、⑥農業面の効果について、⑦コリドールの維持管理状況、⑧今後の農道事業で改善すべき事、の8項目です。
- ・県民の意見の内容について次のとおり取りまとめ、評価を行いました。

##### <利用状況>

コリドールの利用状況については、回答いただいた771戸のうち、690戸(約89%)の家庭が、「ほぼ毎日」から「月に数日程度」の間で、コリドールを定期的に利用しており、「全く利用していない」家庭は81戸(約11%)でした。

また、コリドールの利用目的については、一番多かった回答が「買い物」で247戸(約32%)、二番目が「レジャー・娯楽」で209戸(約27%)、次が「通勤」で195戸(約25%)となっており、コリドールが地域住民にとって日常の生活道路として十分活用されていることが分かりました。また、コリドールを「農業」で利用している家庭は100戸(約13%)でした。

##### <効果>

コリドールの効果については、「効果はない」との回答が37戸(約5%)あったものの、「目的地までの走行時間が短縮された」との回答が537戸(約70%)、「既存の道路との接続がよくなり、利便性が増した」との回答が293戸(約38%)と、回答いただいた家庭の大半から、コリドールについての効果を認めていただけました。

##### <留意点>

コリドール建設による悪影響については、「悪影響はない」との回答が335戸(約43%)ありました。「悪影響がある」との回答の中で一番多かったのは、「ゴミの投げ捨て等で環境が悪化している」で210戸(約27%)でした。

##### <農業の振興>

農家、非農家の区分を聞いたところ、農業をされている方(専業農家、兼業農家(農業収入が主又は副))は全体のうち265戸でした。

その方たちに、農業に関する質問をしたところ、「農地への通作が便利になった」、または「農作物の出荷が便利になった」と回答いただいた方はどちらも約4割でした。「農業機械の大型化」については、約3割の方が「大型機械での作業が可能になった」と回答されました。「耕作の継続については、」  
「営農意欲が強まった」、または「担い手に頼みやすくなった」と答えた方は約2割でした。

これらは、広域農道の整備により大型機械の運搬が容易になり、担い手が他集落からの入り作を行いやすくなったことや、生産者が育てた野菜・果物の販売・購入が出来る施設が建設され、大規模な直売所への運搬も容易になったことで、生産者の営農意欲の向上にも繋がっているのではないかと考えています。

##### <管理状況>

施設の管理状況については、「適切に管理されている。」が約30%、「舗装の打ち替えが必要」が約23%、「交通安全施設等の改善が必要」が約17%でした。舗装工事の完了後は、直ちに關係各市へ管理委託を行っており、各市が適切に管理してきたと言える半面、舗装の打ち替えについては、工事完了後30年以上経過している箇所もあり、大型車の通行及び経年劣化により、舗装が老朽化したためと考えています。

#### 5・再評価の経緯

##### <答申>

平成16年度の再評価において審査が行われた結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続が了承されました。

ただし、この農道の計画時点における経済性の検討が不足していたと思慮されたことから、今後、道

路関係事業の計画にあたっては、総合行政の観点から部局を越えて最も経済的な線形を十分検討されるよう求められました。

<再評価後の対応>

基幹農道の新規路線を計画する際には、県道、市町道等と事業計画の協議・調整を行ったうえで、路線の線形等の決定を行っています。

また、市町の地域交流施設や他部局による防災拠点施設など、総合行政の観点から他事業とも連携・調整を図りながら事業を実施しています。

6・今後の課題等

<地域の課題>

県民からの意見にもあったとおり、老朽化した舗装の打ち替えや、交通安全施設等で改善が必要となっている箇所があります。

<今後の対応>

現在、舗装の打ち替えを一部地域で実施しています。また、今後についても、伊賀市、名張市と協議・調整し、老朽化した舗装の打ち替えや、交通安全施設等で改善が必要な箇所において、保全対策事業の実施を検討していきます。

評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。